





平成23年度 掃水まちづくり協議会 予算

収入の部			支出の部		
項目	予算額	備考	項目	予算額	備考
前年度繰越金	653,489		事業費	200,000	総務部
松阪市交付金	857,000			400,000	地域振興部
自治連合会 補助金	750,000	櫛田地区 自治連合会		110,000	体育部
				50,000	健康福祉部
				240,000	安全防災部
				350,000	教育文化部
				140,000	環境美化部
			30,000	女性部	
			事務費	650,000	手当・旅費・事務機器・保 険・見舞・弔慰・消耗品
			予備費	90,489	
合計	2,260,489		合計	2,260,489	

・第一号議案  
平成22年度事業報告と決算報告、および監査報告

今年度は緊張感のある報告を願って、事業報告を各部会部長により発表していただきました。地域振興部は間瀬善樹さん、体育部は

後藤仁さん、安全防災部は安達正昭さん、環境美化部は森坂享司さん、女性部は上田真登さんです。

この他、総務部は中西会計、また健康福祉部の野中典さん、教育文化部の森口近さんは家庭の事情により欠席のため中西会計が代

わって報告しました。

決算報告についても中西会計が行いました。

監査報告は豊原町の加藤正之さんに行っていただきました。

・質疑なし  
3月18日に実施した臨時総会の報告について

久瀬会長により会則一部変更の趣旨と副会長選任の経緯について説明・報告を行いました。

(主旨、

それに新しい副会長4名につきまして、協議会たより57号でお知らせした通りです。)

また、臨時総会での審議・決定状況については、みどり苑の迫忠志評議員より報告を行いました。

・第二号議案  
平成23年度事業計画案と予算案について  
事業計画案についても、各部長より発表をしていただきました。予算案については中西会計より行いました。

※図表① 平成23年度予算  
※図表② 平成23年度事業計画(次のページに掲載)

・質疑  
豊原町の太田音次郎さんより副会長の増員は臨時的なものかどうかとの質問に答えて……  
(答)今年度以降は「副会長10名以内」とすると回答する。

被表彰者とその表彰内容について

調理ボランティア様  
調理ボランティアは、ご承知のように協議会発足当時より掃水まちづくり協議会の行事「クリーン作戦」などの多くの行事で食を通した振る舞い活動をしていただいています。地域と一体になった活動は地域の親睦を大いに高め、その貢献は誠に大きく、協議

会として感謝を申し上げ表彰させていただきます。代表として豊原町の菌部良子さんに受け取っていただきました。



表彰式の様子

総会後の松阪市長山中光茂様の講演について

女性部長 上田真澄  
演題は「市民みんなで役割と幸せを感じるまちづくり」で、住民協議会を通して皆でまちづくりをしようという内容の話でありました。以下は講演の主なものです。

・東日本大震災の義援金について  
現在松阪市には、6,000万円もの寄付金が集まった。松阪市の1.5倍の人口をもつ四日市市は4,000万円である。いかに松阪市の皆さんは温かい心をお持ちになるかがよく分かる。

・まちづくりについて  
河村市長の進められている地域委員会は、その委員を5%もない投票率で選出している。一部だけの代表者による委員会である。しかし、松阪市の進める住民協議会は「住民、皆でつくる」ということを大切に、地域主体の地域づくりを実践している。常に地域の求めているものは何かを反映することが出来る。松阪市のいう住民協議会は、名古屋市の求めるものとは全く視点、取り組みが異なるのである。



講演中の山中光茂市長

・飯高町の波瀬地区の活動について  
波瀬地区はクレソンの販売で元氣・活力のあるまちに変化してきている。少し前は過疎化の進んだまちというイメージであったが、今は大学と連携してもうけるま

図表①



平成23年度 掬水まちづくり協議会事業計画 重点的な取り組み		
1. 他地域からも人々を呼び込める目玉となる事業をつくる。 2. 8つの部会活動の一層の充実を図る。		
担当部局	主な事業	
1	総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掬水まちづくり協議会「たより」の月一回の発行</li> <li>・ホームページの更新・管理</li> <li>・事務局会議 12回開催</li> <li>・市の住民協議会設立に関する会合等への参加</li> </ul>
2	地域振興部	<p>掬水夏まつり (7/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との交渉等無理(人数、時間等)などところがあるため、本部が趣旨に則った基本的な骨組みを作成し、部会が執行する形をとる。</li> <li>・基本的には昨年の夏まつりを踏襲するが、より住民の参加が得られるよう工夫を凝らす。</li> </ul> <p>次の二つについては変更する。</p> <p>「明和太鼓」 → 「狛師かんこ踊り」(念仏おどり) 「しょんがいソーラン」 → 「フラダンスショー」(久保町)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜店の出し物は、各自治会と協議したい。また部の会合には、本部との連携を密にしたい。</li> </ul>
3	体育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民体育祭 (5/22)</li> <li>・親子球技大会 (6/19)</li> <li>・夏まつり(応援) (7/30)</li> <li>・グラウンドゴルフ大会 (9/11)</li> <li>・風をあげよう (1月初旬) 風をあげようにはできれば自治会からも参加をお願いしたい。</li> <li>・ふれあいウォーキング (1/21)</li> </ul>
4	健康福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育体験事業</li> <li>・さつまいも苗植 (5月)</li> <li>・収穫祭 (10月)</li> <li>・おやつづくり教室 (11月) 子ども対象</li> <li>・こんにやくづくり (12月)</li> <li>・健康講座 口腔ケアについて (2月)</li> </ul>
5	安全防災部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・櫛田地区合同防災訓練 (10/2) 各地区の自主防災隊との連携強化を進める。 (特に避難誘導について)</li> </ul>
6	教育文化部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動 女性部と協力し、小学校・PTAにも参加願う。</li> <li>・教育講演会 「笑う介護士」広く地域の方に参加を呼びかける。</li> <li>・文化祭 公民館と小学校との協働による開催はできないか検討する。</li> <li>・芸能発表会 公民館行事を協議会行事に切り替え多くの方を呼び込む行事として見直す。参加希望の方は4/20までに公民館へ申し込む。</li> </ul>
7	環境美化部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花いっぱい運動 (11月下旬) 幼稚園と老人会で実施</li> <li>・「ひまわり祭」(櫛田町) (8月上旬)</li> <li>・櫛田川クリーン作戦 (11/20) 山添から近鉄鉄橋までで実施。300名の参加予定</li> <li>・ゴミ講習会・・・市の指定ゴミ袋の導入に際して(分別を含む) (6月上旬)</li> </ul>
8	女性部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃油で石鹸づくり</li> <li>・あいさつ運動(継続) 児童・PTA・地域の方にも新たに加わっていただき、協議を重ね推進する。</li> </ul>

※図表②

・救急ダイヤルの設置・・・年間100万円の経費がかかる。  
・医師会の理解が得られないのが実情である。

・被災者と支援を提供する側の情報をマッチングするポータルサイトを今後、推進したい。  
・防災は、何と云っても最終的にこの住民の意識を高めることが一番大切である。  
・ものを作ることより住民一人一人の意識付けが大切である。協議会で作っている地域の絆で乗り切るこ

でになった。土地にあるものを生かすことで、地域の人たちの努力で変われることを示している。

・24年までに43の地域で住民協議会を立ち上げる松阪市の取り組みについて

①地域それぞれでつくるまちづくりについて、現在、既に22の地域で住民協議会ができています。

②今までの市の各課が出していた補助金を止めて、交付金として、自由に地域の特性を生かして使っていた地域にはそれだけ深く行政も関わろうと考えている。

③行政組織のあり方を今、検討している。地域振興局、公民館、センターなど検討を加え、地域振興拠点のあり方を考えてみたい。地域づくりにおける役割分担や事業についても検討をしている。

④現在の市民センターを、より多くの市民たちに使っていただけ

⑤ふるさと納税の「まちづくり」への導入を行っている。松阪だけの独自の取り組みである。地域への交付金として使っていただく。質疑応答

(1) 防災対策について・・・清水町の安達正昭さんの質問に  
・今度の震災では、「防災」について

・日本に100カ所あった「安心タワー」ですら倒壊被害にあった。避難の仕方を再考しないといけない。避難先が学校だけではない。企業と市が連携して避難場所を確保する必要がある。  
・細かい地域まで標高について調査し、明示したい。



女性部の活動

女性部長

上田 真登

昨年度発足しました女性部は、教育文化部と協力して、昨年度のまちづくりの重点項目であった「あいさつ運動の推進」に特に力を入れて活動をしてまいりました。掬水小学校の児童のみなさんや掬水幼稚園・つくし第二保育園、そして保護者の方々に協力呼びかけ、その活動は四十回を越えました。さらに、地区の方にも普及をという思いで、地区行事でのPR、またポスターも作製して意識向上を目指してまいりました。

さて、みなさんの周りでは、何か変化がありましたでしょうか。

「子どもたちのあいさつがよくなりましたよ」「近所同士のあいさつが増えました」という声が聞こえたら、それはうれしいことです。掬水小学校では、児童会が立ち上がってくれ、運営委員中心のあいさつ運動を前期・後期にわたって展開してくれました。とてもうれしいことでした。

しかしながら、その一方で、「まだまだやなあ」という声もた

くさんいただいています。それを今年度、どうするか。大きな課題です。ほぼ、みなさんへの周知は済んだと思っておりますので、今度は一緒に活動をしてくれる仲間を増やす、ということに力を入れていきたいと考えております。



女性部によるあいさつ運動の様子(22年度)

昨年度はまちづくりからの「お願い」ということで推進していましたが、今年度は、掬水幼小、そして東部中学のPTAの役員の方の協力を得て、「一緒に展開する」という方向で活動したいと考えております。すでに先月三月に第一回の会合を開き、趣旨をご説明しご理解を得たところであります。

また、掬水小学校のご協力を得て、児童との対話、「あいさつ運動を広げるためにどうしたら

いいか」という意見交換をし、一緒に活動・展開できたらと思っております。

このあいさつ運動は、ただ「あいさつをする」ことが最終の目的ではありません。「あいさつをする」というごく普通のこと、防犯や防災にもつながり、安心安全なまちづくりにつながるということをご理解いただければと思います。日頃から近所の方と顔を見て交流があれば、なによりの防犯にもなるでしょう。

先月十一日、未曾有の大震災が起こりました。あまりの悲惨さに言葉を失いました。少しでも力になればと、行動を起こされた方も多いのではないかと思います。私達の住むこの地域でも、東海・南海・東南海といった巨大地震が起こるであろう危険性は前々から叫ばれているところであり、今回の大震災は決してひとごとではありません。そうなった場合、地域での団結は必ず必要になってきます。日頃からあいさつできる、人とのつながりのあるまちは、そういった災害時でも強い力を発揮するはずですよ。

女性部では、昨年度の反省を生かし、今年度は、一緒に活動していただける組織を増やし、この運動のより一層の定着を図

東日本大震災に対する義援金について

(結果報告)

りたいと考えております。みなさまのご協力をよろしくお願ひします

左のようになりましてのご報告いたします。

自治会名	金額	自治会名	金額
山添町	95,425	豊原町	375,277
安楽町	14,994	櫛田町	258,843
山下町	29,640	清水町	49,290
伊賀町	171,144	菅生町	49,110
みどり苑	92,705	合計	1,136,428

松阪市ごみ指定袋の使用がスタート!!

4月より市の半透明の黄色い指定袋の使用がスタートしました。

9月までは、試行期間として半透明の白い袋も使用できます。黄色い袋はスーパーなどで10枚入り100円程度(大サイズ)で購入ができます。

袋には大、中、小の3種類があります。家族数に合わせて購入しましょう。

4月から中の見えない袋、段ボール、米袋の使用はできません。注意しましょう。

もちろん、紙、プラスチックなど資源物の分別も、あわせてお願いします。

この度は、このようにたくさんの方の義援金をありがとうございました。義援金は、4月8日、松阪市福祉課にお渡ししました。自治会の役員の方にはお忙しい中にも関わらず一軒ずつ回って集めることをお願いしました。地域が一つになってこのようになことができたのは素晴らしいことだと思います。ありがとうございました。